



No. 2975

第3293回例会

平成24年4月4日

DISTRICT 2500

OBIHIRO

ROTARY CLUB

方針

ロータリーを学び 共に楽しもう

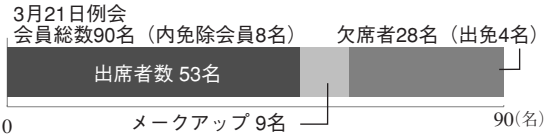
会長 加藤 維利

2011-12年度
国際ロータリーのテーマ

Reach Within to Embrace Humanity

こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

出席
報告



■プログラム

社会奉仕委員会

「薬物依存からの回復、自助活動について」

とちぎダルクセンター 代表 宿輪 龍英 様



とちぎダルクの宿輪(しゅくわ)と申します。本日はゲストとしてロータリークラブの例会に参加させていただきお話しさせていただく機会を与えてくださり感謝いたします。

この原稿は本日をさせていただいたことを振り返りつつ、伝えていなかったことも含めて文章に起こしてみようと思います。

さて、薬物依存症からの回復について述べさせていただきたいと思います。回復とはどういうものなのか。言葉の意味から言いますと「悪い状態になったものが、もとの状態に戻る」と、「一度失ったものを取り返すこと」こういうことではないでしょうか。つまり怪我などをして怪我が治り元通り戻るというイメージのはずです。しかし、薬物依存症からの回復とはどのような状態でしょうか。もともと薬物依存症の発症は早い時期からというケースが多いように見受けられます。アルコール依存症が社会の中で徐々に進行し中高年あたりで問題となり治療やプログラムにつながるケースに比べて薬物の場合は年齢的にも早く問題化するケースが多くあります。それは薬物問題の特性であると考えます。法に触れる、問題行動が出てくる等です。薬物依存症の方は十代から薬を使い始め数年で問題視されてきます。つまり社会経験を経ずに薬を使用し問題が表面化してくるわけです。私を含め多くの薬物依存症者は、ほとんど社会経験がないままにダルクにつながるわけです。だから回復のイメージがつかめません。どのように回復するのか、どこに戻るのか分からないわけです。私自身も薬を使い始めたのは中学生時代のシンナー遊びになるわけですから、使った前の状態に戻るのが回復なら小学生に戻らなければならないわけで、全く現実的ではありません。

私はダルクの中で初めてしらふになり社会の中で生きていけるようになった感じがします。お話しの際には深く触れませんでしたでしたが、刑務所には5回入所しており前科は二桁にも及びます。確かに法に触れることを行えば法治国家である日本の法律により裁かれるのは仕方のないことです。しかし、ただ刑務所に閉じ込めて、「懲りないお前が悪いのだ」といわれても依存症という病気だから改善するわけではありません。むしろ悪化いたします。結果的には依存症者を悪化させる為に刑務所に入れているようなものです。刑務所でもきちんと食事が出ます。仕事をしたら僅かですが報奨金もいただきます。テレビも見られます。運動会や年末年始にはご馳走も出ます。暖かい布団もあります。お風呂もあります。そんな中刑務所ではかつて薬物を使ったもの同士友達となり出所後の約束をするケースが多くなってきます。何度も刑務所の出入りを繰り返すうちに周りから支援してくれる人は消え周りには薬物

と一緒に使う人が刑務所で知り合った人だけがたよりとなるわけです。

私が思う回復とは「成長」のことだと思います。今まで全てのことを、薬を使いながら行ってきた人がほとんどです。朝起きる時、遊びに行く時、うれしい時、悲しい時、仕事をする時、セックスをする時、寝る時、眠れない時…何らかの薬を使用していたわけです。

そしていざ薬を断つと薬なしには何も出来ないことに気づきます。呆然とします。空虚感の中にあるような気持ちになります。

長い時間をかけて少しずつ社会に順応でき、薬がなくても普通の生活が出来るようになる。楽しいことを楽しいと感じられるようになる。それが回復の形ではないかと私は考えるのです。そのためには同じ問題を抱えた仲間が必要です。その仲間はダルクの中にいます。失敗しても何度でも受け容れます。社会は「ダメ!セッター」で分かるように薬を使ったら、ましてや刑務所に入ったら…ダメなわけです。「そんなことはない。やる気になれば社会も受け容れてもらえるさ」という意見もあるでしょう。しかしそういう人にそれでは前科十犯で年齢は五十歳で全く経験がない人ですがやる気はあるので雇ってもらえますか?といったらどうでしょう。多分無理ではないでしょうか。帯広に来て施設の物件を探す時に何人かの心ない大家さんと会いました。「薬物?だめだめ。物件を壊すから」とか「そういう人たちはちょっと…」。

薬物依存症は社会で発症する病です。本人だけでなく社会の協力も支援も理解も必要なのです。しかし現実には前述の通り“そのような”人たちはかかわりあいたくないと言うのが大勢の意見です。ですから、薬物依存者は社会で生活できずストレスと孤独のなかで再使用し刑務所に戻ってしまいます。受刑者を一人養うのに月に20万円以上かかるといわれます。その他の経費をふくめたらもっと多くの金額がかかるでしょう。(裁判費用、国選弁護人の費用等)そのお金は全て税金でまかなわれています。出て戻るの悪循環の連鎖をどこかで断ち切らなければならないと思います。それには社会内で薬を必要としない健全な暮らしをすることが一番ではないでしょうか。薬物を使う人は悪い人だし怖い人だという偏見が大きな壁を作っているのです。皆さん色々な形でダルクの仲間たちの支援をしてください。お願いいたします。かつて薬物を使用し反社会的なことをしていた人でも立ち直る可能性はゼロではありません。素晴らしい社会資源になる可能性はあるはずです。

■会長報告

加藤 維利 会長



あっという間に4月に入り、今年の今頃が昨年のような感じがします。昨年に戻ってあの時に、あぁしたかったなということがあっても、アインシュタインの相対性理論ではないですが、時間の矢は未来に向かってしか進まず、過去に

は戻ることができません。ニュートリノが光より速いという話も、どうも違っていたようです。やっぱりタイムマシンはできそうでもありませんでした。

さて、今月は雑誌月間になっています。ロータリアンの3大義務は以前にもお話ししましたが、1.会費を納めること。2.例会に出席すること。3.ロータリー雑誌を購読することです。この公式雑誌の購読義務に関しては、クラブ定款の第14条ロータリーの雑誌に記載されています。

「ロータリーの友」は1952-52年度、日本の地区が2地区に分割されたのを機に53年1月号から創刊されました。「ロータリーの友」という名前は投票により決められました。その当時、発行部数3,300部でしたが、現在は98,400部が発行されています。1952年以前の日本のロータリアンが読んでいたロータリー雑誌は英語の「THE ROTARIAN」ですので、当時の我々の先輩たちはどうしていたのか、誰かが訳したのを読んでいたのか、思わず感心せずにはられません。

RI公式雑誌は英語の「THE ROTARIAN」ですが、世界各国で31の地域雑誌が発行されています。そして、「THE ROTARIAN」と他の31の地域雑誌を総称して、「ロータリー・ワールド・マガジン・プレス」と呼ばれています。「THE ROTARIAN」の前身である「THE NATIONAL ROTARIAN」は1911年1月に初代RI事務総長のチェスリー・ペリーによって創刊されました。この創刊号に掲載されたポール・ハリスの論文「合理的ロータリアニズム」はロータリーの友2010年1月号に掲載されています。読んでない方は、ぜひ一読してみてください。

ところで、「ロータリーの友」は創刊当時には横組だけでしたが、俳句などの掲載には不都合なため、1972年1月号から縦組と横組が分けられ、現在に続いています。カラーが入るようになったのは意外に遅く、1986年3月号からとなっています。2002年7月号からはA4版の大きさに変わり、読みやすくなりました。「ロータリーの友」の変遷についてはロータリージャパンのホームページ「ロータリーの友」のあゆみに掲載されています。

「ロータリーの友」はロータリー情報の宝庫です。ぜひ活用しロータリーの知識を豊富にすることをお願いしまして、本日の会長報告とさせていただきます。

■ゲスト紹介

とかちダルクセンター 代表 宿輪 龍英様 他5名様



■会務報告

和田 賢二 幹事

(1)・帯広南RC、4月9日(月)の例会は、休会と致します。

・帯広南RC、4月30日(月)の例会は、祝日のため休会と致します。

(2)帯広南RC、創立記念夜間例会開催のご案内

日時 4月23日(月)午後6時30分

場所 北海道ホテル

(3)帯広西RC、夜間移動例会開催のご案内

日時 4月26日(休)午後6時30分

場所 北海道ホテル

(4)帯広北RC・帯広東RC・音更RC、3RC合同例会開催のご案内

日時 4月27日(金)午後0時30分

場所 ホテル日航ノースランド帯広

※尚、帯広東RCは、4月24日(火)の繰下げ例会と致します。

3月31日付け退会報告

本間 良輝会員・加藤 敏紀会員

■委員会報告

・出席報告

園尾 真一 出席委員

4月4日例会の報告 会員総数88名 内免除会員8名 出席者数63名

3月21日例会の報告 メークアップを含む出席者数62名 出席率72.1%

・ニコニコ献金

川上 義史 親睦活動委員

野村 忠秀様

道後温泉で有名な松山市の道後RC元会長野村忠秀様がいらっしゃる予定でしたが、急きょ欠席となりました。

増田 正二 会員

遅くなりました、十勝晴れ完成、完売しました。皆様の応援に心から感謝申し上げます。

木村 裕氏 会員

出席表彰14名

大江 徹 会員

本日の例会を担当します。

佐藤 幸宏 会員

還暦祝い。

中田 隆三 会員

釧路支店開設祝いをそのまま献金させていただきます。

■お誕生祝い

親睦活動委員会

平原 隆 会員 白石 俊之 会員 中島 一晃 会員

五十嵐聖二 会員



■4月のプログラム予定

4月11日(水)「地元から情報発信することの意義と価値」

高原 淳 会員 (広報委員会)

4月18日(水)「会員卓話」 三浦輝世典 会員 (プログラム委員会)

4月25日(水)「会員卓話」 森 武夫 会員 (プログラム委員会)

ロータリー情報

ロータリーの友4月号から

4月は雑誌月間。それにちなんで、ロータリーの雑誌についてご紹介しています。「ROTARY WORLD MAGAZINE PRESS」では、その発行地域のロータリークラブやロータリアンの活動を紹介するとともに、『THE ROTARIAN』から指定される記事を、その地域で使われる言語に翻訳して掲載しています。記事だけでなく、表紙にも、そのお国柄が表れています。RIの機関誌『The Rotarian』の前身『The National Rotarian』が創刊されたのは1911年1月です。この雑誌は、創刊号の中でポール・ハリスとチェスリー・ペリーが書いているように、「すべてのロータリークラブだけではなく、すべてのロータリアン」へメッセージを伝える手段でした。そして1915年、イギリス・アイルランドで最初の地域雑誌が創刊されたのを皮切りに、地域雑誌が創刊していきました。



↑携帯サイトができました。バーコードリーダーで読み込む事ができます。

例会日/水曜日 12:30~13:30
例会会場/ホテル日航ノースランド帯広
TEL0155-24-1234

●創立/昭和10年3月15日 ●認証番号/3820

●戦後再開/昭和25年12月19日

事務局/帯広市西3条南9丁目 経済センタービル4F
TEL0155-25-7347 FAX0155-28-6033

●発行/クラブ広報

●委員長/安岡美樹夫

高原 淳・田守 由宗・北野 宏明

堀江 威光・辺見 京一・加藤 敏紀

●ホームページアドレス/http://www.obihiro-rc.jp